

ジイ沢から片貝沢そして大殺山

齋藤 美和子

■山行年月日:平成 30 年 7 月 14 日
~15 日

■メンバー:齋藤美和子 大竹尚子

檜枝岐と奥只見の間にある大殺山。秘境中の秘境である。大津岐一の沢からジイ沢乗越で片貝沢に降りて南の沢からとなった。朝早く若松を出発して、大津岐林道の発電所の近くに駐車。天候は晴れ。暑い。一の沢沿いの林道をどんどん進んで、大きくカーブするところで入溪。ここからジイ沢に入る。すぐにジイ沢唯一の滝。これは、巻く。あとは平凡な沢。じいさんでも登れる沢?という意味かと思う。雪溪が1か所残っていた。鞍部に出るところは、少し急で、息が切れた。ザックもシュラフもどんどん軽量化してきているのに自身の脂だけは落とせない。風はない。景色は最高。周りはブナ。沢水につかっていると、本当に気持ちがいい。稜線は、松。極相林。稜線沿いにはかすかなふみ跡。時間があるので、ゆっくり休んで鞍部を降りていく。いつの間にか片貝沢に入っていた。片貝沢は滑と釜である。右手から沢が入りここが大殺山の南の沢。2俣までと遡行を続ける。丁度いいテント場を見つけて、. 本日の遡行終了。ごはんを作って濡れた服を日光で乾かして6時前には寝た。川のせせらぎがこちよかった。

翌日は、朝6時に出発。2俣を目指して遡行したが、なんとなくずれている。20分ほど登って戻る。実は目標の沢は

テント場のところ。6:30にテント場の左手の沢を登り始める。少し登っていくと、また2俣あり、右を採った。しかしこれがまた違って戻る。そして、あとはルート通りに、滝もなく稜線についた。稜線には、ふみ跡。藪は薄い。途中で、遠くの山の景色が見えた。荒沢岳、片貝スラブ。会津駒、燧が岳。山頂には三角点あり。8:35であった。こんなところに来れるなんて。感激もひとしお。秘境中の秘境にたどり着いた。会津山岳会に入って本当に良かった。もう来れないかも。ここに來たことに感謝。やっとこれたこんな素晴らしいところ、帰りたくない。でも帰るしかない。帰りは、只見のターザンの話を教えてもらった。ターザンにあこがれてしまった。尚子さん、ありがとうございました。またお願いします。

大殺山頂の三角点



